

おい図書館

No. 216

発行
代表
青木 和子
松本市牧の原 104-416
TEL 047-311-0886

投稿

関千枝子さん・半藤一利さん

天に召されて

塩崎俊一

5年前に私は、日本図書館協会主催の関千枝子さんの講演会に参加した。そこで彼女の生き様と共に、図書館に関する市民活動の問題提起をお聞きした。

その関さんが2月21日に88歳で他界されたので、残された重い言葉と思い出を記してみたい。

広島高女時代には原爆が投下され、級友全員死亡の中で奇跡的に助かり、新聞記者を経て、7年間米國に移住。生来の本好きで、米國の図書館を通じて民主主義の基礎を

学んで帰国。以降40年、図書館問題に深く関わった人だった。彼女は社会的弱者への視点から人願の尊敬も大事にしない社会への怒りを、ペンと行動で示した本物のジャーナリストと評価されます。安らかにお休みを。

一方、関さん逝去の1ヶ月前にも、歴史探偵を自称した貴重な作家半藤一利さんを90歳で、残念にも私達は見送りました。

半藤さんも、あの3月東京大空襲で九死に一生を得た人です。残された著作の内、私は読了した「日面昭和史」を通して、「やはり読まなければ、知って、つもりで終る」を実感した。歴史は、学ばなければ決して

て綴ってくれない。その通りです。加えてその読書からは、答ではなく、変動の現代を生き抜くヒントを見つけ、考えるものだ。と確信しています。

戦中は「軍国少年」だった私は、このお二人に共通する信念の言葉が色褪せず、胸に響きます。半藤さんは「物事に絶対性はないが、戦争だけは絶対悪だ」と、関さんは「75年過ぎて、まだ戦争は終わっていない」と。どちらも次世代につなげなければならぬ大事な言葉でありバトンだと思ふ。今、コロナ禍で本との時間を使える大切なトキを得たとして、本と図書館の持つ力を再考しよう。

☆五月晴れの日

浦安市立中央図書館

見学会

Part 3

松戸市議 ミール計画

「おい、図書館」の皆さんと、浦安市立中央図書館の見学に行ってきました。

昭和58年に開館し、築38年が経ち、平成30年からリニューアル工事が行われ、令和2年春にリニューアルオープンという事でした。先進的な図書館という事は聞いていましたが、建物のみならず、それを管理運営する方々の高い意識が感じられる図書館でした。

リニューアルにあたってのコンセプトは「もつと使いたくなる図書館」。そのためにはどうしたら良いかという事を検討委員会で議論して、いくつかの形になったそうです。

その一つが「アクティブに学ぶ」。静かな図書館から活発な図書館へ。二つ目が「子ども居心地の良い、賑わいのある空間」。三つ目が「深く学ぶ」。レファ

レンス室受付を1ブースから2ブースへ。

四つ目が「静かに学ぶ」。パソコン、電車禁止のサイレントルームの設置。

このように様々な工夫がされています。そして、広くて綺麗で快適です。美術館のような趣があり、周りは芝生の広場が広がって、図書館と一体の空間を形作っていました。何度でも来たいな図書館でした。

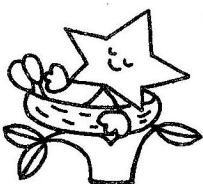
小学生の頃、私は大の本好きで、毎日のように学校の図書室に遊び、司書の先生ともよく話をしていた。特に海外の推理小説が好きで、シリーズを読み漁っていました。

ところが中学校では、図書室は鍵がかかっていて、いつでも入れる空間ではありませんでした。部活も勉強も忙しく、いつ

しか図書室にはあまり行かなくなっていました。

しかし、図書館はやっぱりワクワクします。読む本をいくらでも読めるのですから。しかし今はなかなか読む時間が無く、買った本も積んでいる状態です。ゆっくりに本を読む時間が有る生活がしたいなあと、つくづく思います。そして、松戸に素敵な図書館を、これは市民の悲願でもあると思います。どこに作るかを含めて、市民の皆さんとしっかり検討して、ぜひ全国に誇れる素敵な図書館を松戸に作りたいと思います。

皆さんの地道な活動に頭が下がります。この様な市民の活動が、市をより良くしていくと思います。応援しています。今後とも、宜しくお願いします。



浦安市立中央図書館

書庫棟展示

青木和子

書庫棟は、中央図書館1階の一般フロア奥にあり、豊富な蔵書を備えた開架書庫と読書や学習のための学習スペースから成り立っています。学習スペースもリニューアルされました。「学習室」は全席でパソコン使用可能になり、より静かに学習できる「サイレントルーム」20席が新設され、使い分けて使用できます。

書庫棟の通路に面して展示コーナーがあり、時宜に適ったテーマに添って司書さんが選んだ資料を展示。年に数回、テーマを替えて展示資料の入れ替えを行います。

私達が訪れた時のテーマは「感染症」でした。展示期間は2020年9月4日〜11月26日。

過去の様々な感染症に関する書

籍が展示され、又、浦安市立中央図書館所蔵の関連資料の中から、司書さんお薦めの本の目録が作られていました。

目録は、①過去から学ぶ人類と感染症の関わりと共存、②フィクションの中の感染症、③今を聞くために、感染症を正しく知るの3グループに分けて計123冊が紹介されていました。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの中で、正に時宜に適った展示でした。

目録より

①・人類と感染症の歴史

加藤茂彦著

・感染症の歴史

石弘之著

・種痘伝来と日本の開国と知

の国際ネットワーク

アン・ジャネット著

・江戸の流行病

鈴木則子著

②・ペスト

カミニ著

・田舎教師

田山花袋著

・おとうと

幸田文著

③・正しく怖がる感染症

岡田晴恵著

絵でわかる感染症ウィモヤしも
ん 岩田健太郎著

・わかりやすさの罠 池上彰著

松戸市の

新拠点ゾーン計画について

西山怜子

一、「松戸市は松戸駅東口に新庁舎を建て替える」との案を、市の諮問機関の会議で示した。と、2020年10月13日の朝日新聞に掲載されました。

「新拠点ゾーン」とよぶのは松

戸駅東口の相模台一帯のこと、公務員宿舎だった北側ゾーン、中央公園の中央ゾーン、相模台公園や旧法務局跡地の南側ゾーンと、3つのゾーンから成る高台です。

二、2021年3月16日に「おーい図書館」のメンバー8名が相模台の現地を視察しました。北側ゾーンは、私達が望んでいる図書館など文化施設の建設予定のようです。

今回は南側ゾーンを中心に視察しました。旧法務局跡地と相模台公園と合わせて、約900m²の広さと土地との事です。私的には旧法務局には仕事で行ったり、相模台公園には桜の時期に知人とお弁当を持参して楽しんだ場所です。旧法務局は正面からしか見ていないし、南側ゾーンの広さには、先ず疑問を持っていました。今回のメンバーの中に裏側のマンションの住人の方がいて、その方の案内でマンションの10階の通路より、旧法務局の裏側につながる平地、更に続く相模台公園と、全様を見る事が出来ました。全体は、想像していたよりもかなり広い敷地でした。また、遠くに見える景色も新鮮で

した。

三、私の感想：確かにこの南側ゾーン、中央ゾーン、北側ゾーンの敷地が民間の手に渡るとなると、松戸の一市民の私としても許せません。反面、松戸市の財政面から土地購入費、工事費などの支出は大丈夫かなと素朴に思いました。しかし、将来に亘っても松戸市に必要なものはやはり確保しなければならぬと思います。そこが、松戸市の力を問われているところです。相模台は高台にあり、南側ゾーンへの道は一方通行で狭いです。このマイナス面を受け止めて、考慮して工事で解決すべき問題です。

一方、市庁舎の現地建て替え論もある様ですが、現在進行中の市の業務はどうなるのでしょうか。素朴な疑問を感じました。

四、朝日新聞の記事では、議会

を通すには出席議員の3/5以上の同意が必要との事です。この建て替え問題は松戸市・松戸市民にとって、又、現在・将来に亘って重大な事柄です。議員も市民も各々異なる考えを持っているでしょう。従って、プラス・マイナス面を明確にして議論検討し、党派を越えて解決すべき問題だと考えます。

五、北側ゾーンは、図書館などの文化施設や商業施設との事です。南側ゾーンだけでなく、北側の文化施設も実現してほしいと切に望みます。松戸市民にとって大切な拠点です。全体を一つの計画として遅滞なく進めてこそ、松戸市の将来の発展のための大きな財産になります。

図書館は地方自治を支える重要な基盤であり、その発展が地域を活性化させ、地域住民の活躍につながります。松戸市に人が集まり、活発化するこゝでしよう。